

第6学年3組 国語科学習指導案

令和4年6月27日（月）第5校時

1 単元名・教材名 筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えをまとめ、発表しよう

「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童の実態

(略)

(2) 本単元の意図

本単元は、学習指導要領〈知識及び技能〉の(2)「ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること」と、〈思考力、判断力、表現力等〉の「C 読むこと」(1)「ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること」と「ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすること」と「オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」を受けて設定している。

身に付けさせる資質・能力

- ・主張と事例の関係を叙述を基に捉える力
- ・主張を支える事例のために必要な情報を見つけたり、論の進め方を考えたりする力。

指導にあたっては、三つの段階で指導を展開していく。

第一次では、学習の見通しをもつ。まず、見開きで文章全体が見える教材「笑うから楽しい」をとおし、説明的文章の筆者の主張や意図を捉え、それに関する自分の考えを発表する。筆者の主張を捉える上で事例を挙げることの効果や内容に対する自分の考えをまとめることで、本教材「時計の時間と心の時間」の大まかな学習の流れをつかませたい。

第二次では、本教材「時計の時間と心の時間」を読み、主張とそれを支える事例との関係に着目し筆者の意図を考える。初発の感想では、読んで感じたことをただ書くだけではなく、筆者の主張に対する納得感の度合いや、疑問などを考えさせることで、文章構成や筆者が挙げた事例の意図を考える学習につなげていきたい。本教材の筆者が挙げている事例は、読者である児童が共感しやすいものから順に4つ並べられている。その内容は、経験に基づくことや実験結果に基づくものなどが取り扱われている。そこで挙げられている事例について、児童の納得度を確かめ、分かりやすいものから並べられていることや、内容が文章だけで納得しづらい場合は、図や表、具体的な数値などを取り入れて説明をしていることに気付かせたい。

第三次では、実生活の中で相手との心の時間のずれによって生じる諸問題について考えを出し合う言語活動を設定する。児童には、6年「帰り道」の物語に出てくる二人のように心の時間の感じ方のずれによって、困ったことや驚いたことなどの経験を挙げさせ、その時にどんな対応をしたらよかったのかをみんなで話し合い、筆者が主張するように「心の時間に目を向け、時間と付き合っていく。」という知恵を身に付けさせたい。

3 研究主題と野関わり

研究主題『確かな学力と豊かな心を育てる国語教室』
～生きて働く力を育てる指導法の工夫～

本研究で目指す「確かな学力と豊かな心が育っている児童」とは、「生きて働く力を身に付けている子」である。「生きて働く力」とは、「学習の基本となる確かな国語力を身に付け（語彙力）、自分の思いや考えを、伝え合いや学び合いを通して広げ深める力（表現力）」と考える。そのためには、児童の実態を正しく把握し、年間を通して確実に指導事項が身に付くように、単元を通して付けたい資質・能力を見極め、国語科をとおして指導していく。そこで次のような手だてを考えた。

仮説①

文章を正確に読み取り、根拠をつけて話したり書いたりできれば、基礎・基本が身に付き、思考力・判断力・表現力が高まるであろう。

○手だて 読む力を育成するための指導の工夫

文章を正確に読み取るために、筆者が示す事例を実際に体験して、より深く理解する機会をとる。また、文章のみの教科書全文シートを用いて、図やグラフの必要性を考えたり、段落相互の関係性を捉えたりすることができるようにする。そして、本単元だけではなく、年間をとおして自分の考えを伝える際に「主張、理由、根拠」の3つの柱で話すことを児童に求め、表現力を高めたい。一貫した学習の流れの中で、基礎基本を身に付けることができれば、より思考力・判断力・表現力が高まるであろう。

仮説②

単元の中で話合いの場を意図的に設け、学力レベルの結果からグルーピングを工夫することにより、効果的に学力を伸ばすことができるであろう。

○手だて 学力レベルの結果からグルーピング

学力差のある児童間では、話合いの時に学力層の上位の児童は相手を意識して説明することでより深い理解をすることができ、学力層の下位の児童は説明を聞いて解き方を学ぶことで問題が解けるようになる。これらの活動を続けていき、自信をもって話合いに参加することができるようになれば、主体的に学習に取り組めるようになり、生きて働く力が育つであろう。

4 単元の目標

- (1) 原因や結果など情報と情報との関係について理解することができる。 〈知識及び技能〉(2) ア
- (2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1) ウ
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1) オ
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

5 単元で取り上げる言語活動

実生活の中で相手との心の時間のずれによって生じる諸問題について考えを出し合う。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
原因や結果など情報と情報との関係について理解している。 (2) ア)	①「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1) ア) ②「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1) ウ) ③「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。(C(1) オ)	進んで、主張と事例の関係を捉えて読み、学習課題に沿って自分の考えをまとめて発表しようとしている。

7 指導計画(8時間)と評価規準

次	時	学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	1	○説明的な文章の筆者の主張や意図をとらえ、それに関する自分の考えを発表するという学習の見通しをもつ。 ○「笑うから楽しい」を読み、筆者の主張と事例の内容を確かめる。	○要旨の把握 ○文章全体の構成の捉え方	○「主張」「事例」という既習の学習用語を押さえる。 【知識・技能①】 ノート 主張と事例について、文章の構成と関連させながら理解しているか確認する。
	2	○「笑うから楽しい」を読	○文章の構成や展開	○事例の有無による読み手の理解の違いを

		み、筆者の書き方の意図を読み取り、事例を挙げることの効果や、内容に対する自分の考えを書く。	○話の内容が明確になる書き方 ○自分の考えの形成	押さえる。 ○自分の考えを書く際に、経験と結び付けて考えを書かせる。 【思考・判断・表現① ③】 <u>発表、観察</u> 筆者の主張や事例に注目して読み、自分の考えをまとめて書いているか確認をする。
2	3	○「時計の時間と心の時間」を読み、初発の感想を書く。	○新出漢字 ○要旨の把握	○時間が早く感じるときや遅く感じるときを想起させ、心の時間とは何かをおさえる。 【思考・判断・表現①】 <u>発表、観察</u> 筆者の主張や事例に注目して読み、納得できたことや共感できたこと、疑問に感じたことなどを感想にまとめていることを確認する。
	4	○文章全体の構成を捉える。	○段落の役割 ○文章全体の構成の捉え方	○それぞれの事例を体験しながら、筆者の主張や事例について正しく理解できるようにする。 【知識・技能】 <u>発表、記述</u> 主張と事例について、文章の構成と関連させながら理解しているか確認する。
	5 (本時)	○主張とそれを支える事例の関係に着目して、筆者の意図を考える。	○論の進め方 ○話の内容が明確になる書き方 ○自分の考えの形成	○取り上げた事例は、共感しやすいものから書かれていることに気付かせる。 【思考・判断・表現②】 <u>発表、記述</u> 目的に応じて、文章と図表とを結び付けて読み、筆者の論の進め方について考えていることを確認する。
	6	○筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。	○筆者の考えとの比較	○筆者の主張の妥当性について、自分はどう考えるかをまとめる。 【思考・判断・表現③】 <u>記述</u> 筆者の主張と事例の関係を捉え、自分の経験と重ねながら、考えをまとめていることを確認する。
3	7	○日常生活の中で起こる心のずれ事件をまとめる。	○事例の書き方	○6年「帰り道」の話为例に、日常生活の中で起こる心の時間に関する事件を想起させる。

				<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p><u>ノート</u></p> <p>学習課題に沿って自分の体験を想起し、事例をまとめているか確認する。</p>
8	○日常生活の中で起こる心の時間のずれ事件は減らすことができるのか、考えを交流する。	○主張の書き方 ○交流の深め方	○Jamboard を使って、友達の体験した心の時間のずれ事件が減らすことができるかを、グループで考えさせる。	<p>【思考・判断・表現②】</p> <p><u>記述</u></p> <p>自分の体験を想起し、友達の考えをもとに自分の考えを深めているか確認する。</p>

8 本時の展開(5/8時間)

(1) 目標

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。
 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)ウ

(2) 評価規準

読むことにおいて、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。
【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 本時のキーワードを辞書引きする。	○辞書引き「説得」	○本時の学習につながる語句を調べさせる。	2
2 既習の学習を振り返る。	○前時までの学習の想起	○文章の4つの事例を確かめることで、本時の課題にスムーズに入ることができるようにする。	5
3 学習課題をつくる。	○課題づくり		2
四つの事例にかくされた筆者の意図を考えよう。			
4 グループで話し合い、意見を深める。	○説得力のある文章の書き方 ○事例の内容や順序の意図 ○聞き手に分かりやすい主張	○以下の三つの項目をもとに、自分の考えを伝え合えるようにする。 ・主張→根拠→理由	15
<p>〈予想される児童の反応の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例①は、ゲームをしている楽しい時間のことや退屈な時間のことが書かれていて、誰もが体験したことのある事例を挙げているので納得度が一番高い。 ・事例②は、具体的な数値が入っていて想像しやすかったし、実際に体験したときに筆者が言ったとおりだと思った。 ・事例③は、初めに読んだときはよく意味が分からなかったけど参考動画を見て、教科書の図があったからなんとなく意味が理解できた。 ・事例④は、図が無いし、実験をやってみただけ心地のいいテンポっていうのが何なのかがよく分からなかったから納得度は低い。 			
<p>〈評価規準〉 【思考・判断・表現】 〈評価方法〉 話し合いの観察・発表・ノート 筆者の挙げた事例の意図から、事例の並び方の工夫に気付き、説明している児童をB評価とする。 〈「努力を要する状況(C)」への手だて〉 ・図やグラフがある文章とそうでない文章を比べて読ませ、事例の並び方の意図を見付けられるように助言する。</p>			
5 全体で発表する。	○全体交流の仕方	○聞き手は、発表に対し説得力のある部分についてメモさせる。 ○班ごとの主張を聞き合い、事例の順序の意図を話し合わせる。	8
6 学習のまとめをする。	○論の進め方		8

